

Report from the EDGE

ディスレクシア (Dyslexia) とは……

知的に問題がなく、聴覚、視覚の知覚的機能は正常なのに、
読み書きに関して特徴のあるつまずきや学習の困難を示す症状のことをいいます。

EDGE は……

ディスレクシアの正しい認識の普及と教育的な支援を目的とした特定非営利活動法人 (NPO) として、
2001年10月に認証・設立され、活動しています。

「1Q84」とディスレクシア

文責：藤堂栄子

「1Q84」村上春樹氏の新書にディスレクシアの少女が準主人公で登場します。多くのディスレクシアの人にとって、上下巻あわせて1000ページに及ぶ大作であり読み通すことははなはだ困難です。

自己流の速読でどうにか読み通したので、私がこの作品の中から拾ったディスレクシアの症状と対応方法、支援方法について取り出しました。読んだところ、聴覚の認知や記憶が優れているディスレクシアと思われそうですが、そういう人に対して有効なヒントがいろいろと隠れています。

「ふかえり」とディスレクシア

どんな本を読んでいるかの質問に「ホンはよまない」「よむのにじかかんがかかる」と答える。学校でどうしていたかを尋ねると「よんでいるふりをする」。

書くことについて尋ねると「かくこともじかかんがかかる」と答え、連絡を取るときに「てがみをかけるといいんだ

けれどにがてなのでテープにふきこむ。」と言わせている。

読み書きが時間がかかり話し言葉は不思議な感じではあるが、それ以外の能力を以下のように描写している。

—物語を語り始めると。その声は驚くほど力強く、また豊かにカラフルになった。

—この少女は本が読めないぶん、耳で聞き取ったことをそのまま記憶する能力が、人並みはずれて発達して

目次

- P1 「1Q84」とディスレクシア
- P2 文部科学省教科書音声化プロジェクト
- P3 LSA 発表会 / 書評「脳が良くなる耳勉強法」
- P4 LSA (学習支援員) リーダー研修の成果
- P5 LSA テキストの紹介
- P6 就労支援ワークショップ報告 / ディキャンプのねらい
- P7 第25回DX会報告 / 最近の活動紹介等
- P8 愛をはこぶ人キャンペーン



本体1600円+税 A5判・160頁

ディスレクシアでも大丈夫!

読み書きの困難とステキな可能性

読売新聞で紹介!

好評
たちまち増刷!

藤堂 栄子 著

(NPO法人エッジ代表)

親と子のコラボレーションで、
すばらしい可能性を
見事に示してくれる本

上野一彦先生 (日本LD学会 理事長)

- 1章 読み書きの困難について
- 2章 読み書き以外の困難と得意なこと
- 3章 ライフステージにそって
—どう対応すればいいの
- 4章 息子の成長—誕生から就職まで
- 5章 僕がイギリスで受けた支援

いるのではないだろうか。

— 現実と想像の区別がついていない、と人々は言った。彼女の考え方のかたちや色合いは、他の人々のそれとはずいぶん違っているみたいだった。

— 驚くほど聡明な子だ。自分が吸収しようと決めたものはすばやく、深く有効に吸収できる。

「ふかえり」の受けていた支援【ナチュラルサポート】

- 1) 本著の中でふかえりはどうやって知識を得たかについて「だれかがよんでくれた」「テープできた」と言い、彼女が書いたとされるものについても「わたしはかいていない」二つ下の「アザミ」にかたりそれを「タイプしてインサツした」という。
- 2) 声に出して読む前に、天吾はその本についての簡

単な説明をした。

- 3) 親代わりの人が説明の中で「機会があれば声に出して読んでやるようにした。市販の朗読テープも与えた」。

他にもうれしい表記があった。

学校で支援がなされなかったことに関して、「田舎の小さな学校だ。ディスレクシアなんて言葉は聞いたこともないはずだ。」その他にも文中で押し付けて教えることを「脳味噌の纏足(てんそく)」、読み書きの能力と生きる能力は必ずしも同じではないことをいくつかの文化について「じをもたない。きろくものこさない。わたしもおなじ。」とふかえりに言わせている。

☆エッジでは文部科学省の発達障害等に対応した教科書等のあり方に関する調査研究事業を委嘱されました。その中で迅速、安価で質の高い音声教科書を作成する技術とそれを実践して効果を調査する事業を担当します。

文部科学省教科書音声化プロジェクト

文責：山田秀樹

エッジは、文部科学省により『発達障害等に対応した教材等の在り方に関する調査研究事業』の調査研究事業委託団体に指定され、教科書音声化の調査研究事業を行うことになりました。この調査研究事業は二つの柱があり、一つは筑波大学宇野准教授を中心に実施する音声教科書の有効性調査であり、もう一つは音声合成ソフトを利用した、従来の朗読方式とは比べ物にならない効率で音声教科書を作成できるシステムの調査研究開発です。

『障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律』(俗称：「教科書バリアフリー法」)が2008年6月10日に成立しました。

しかしながら、法律成立から1年経過した現在も、音声教科書を容易に入手できる環境は整っていません。音声教科書の普及には、作成時の朗読による多大な時間とコスト、読み手の技量等の問題を解決する必要があります。

音声合成ソフトを利用すれば、テキストデータは自動的に音声化することができます。今では音声合成技術も向上し、人の読み上げ品質にかなり近づいてきました。しかしながら、読み間違いやイントネーションの修正が必要です。今回、これらの修正をインターネットを利用して同時に複数の人が作業できるようなソフトウェアを研

究開発します。

将来このソフトウェアを進化させていけば、インターネットを利用してボランティアを集め1人あたり数ページの監修(修正)を行うことで、迅速に教科書音声化を行うことができます。決められた時間までに監修をして頂ければ、作業者の場所も時間も拘束されませんので、作業をするボランティアの人数を集めれば全ての教科書を一日で音声化することも夢ではありません。また、文字と音声データとしてありますので、eBookやDAISY等の各種フォーマットへの自動変換も実現できるかもしれません。

このシステムを教科書に準ずる教材を障害のある児童生徒に向けて製作する非営利団体が年内に試用できるように準備中です。ご期待下さい。

株式会社ソルクシーズ(当調査研究事業事務局)



効果測定発表会について

文責：木村綾子

港区では、平成 18 年から本格的に学習支援員制度の体制を組み、区内の小中学校に派遣され、今年で 3 年目となった。全国に先駆けて学習支援員という制度を作り派遣をしている中で、「一人ひとりの教育的なニーズに応える」ためにはきめ細やかな体制づくりと限られたリソースの中でより的確に効果が上がる方法を取る必要があることが見えてきた。

発表会は 2009 年 9 月 27 日、港区、高輪区民センターで行われた。今回の発表会では、一人の児童に関係す

る教育委員会、学習支援員、学校、保護者の方々に登壇いただき、現状とこれからの課題を話し合った。

どのパネリストも共通して話していたことは、何より連携が取れていることによって、教育的ニーズに応えられているのではないかということ。子どもに関わる複数の大人のコミュニケーションが大切であり、最善の支援を実行するために、関係者が同じ方向を取り進む姿勢が大切ということが、この発表会で改めて見えたことである。

この発表会は日本財団の助成金で実施されました

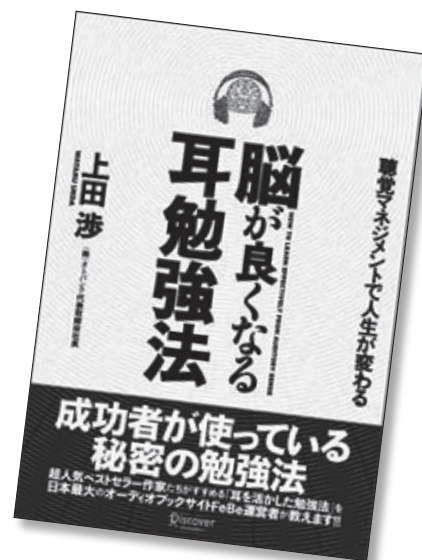
脳が良くなる耳勉強法

上田 渉 著

「今から考えると、私は学習障害の一種だったのではないかと思います」——問題児としての子供時代を過ごし、高校時代には偏差値 30 だった著者は、音声を活用した勉強法を編み出して東大合格を果たし、現在は日本最大のオーディオブック企業の社長を務めています。勉強というと、どうしても視覚に偏りがちなものという先入観がありますが、聴覚を上手に活用していくことで、より効率的に、そしてより豊かに学習していくためのヒントが見つかった一冊です。「読書が苦手」なことを脳の個性ととらえ、脳科学などの知見に基づいて、聴覚を通して言語能力を鍛える方法を紹介しています。ただ耳から情報を取り入れるだけでなく、それを長期記憶に定着させ、アウトプットできるようにするためにはどうトレーニングしたら良いのか——。ディスレ

クシアの子どもたちに対して使われている教育手法を取り入れた、誰でも気軽に組み入れる耳勉強法のテクニックを伝授。

(照山 絢子)



出版社：ディスカヴァー・トゥエンティワン
価格：1,575 円（税込み）

リーダーたちは語る

2009年6月26日、地域における学習支援員(LSA)活用事業でリーダー研修を行いました。
4都市(川越、宮崎、明石、名古屋)の代表の方から感想と今後の抱負をお聞きました。

現在も川越市には自立支援サポーターをはじめ、学校運営サポーター、スクールボランティアなど教員以外の支援員が60名近く配置されております。研修もないまま各学校に配属されるため、いまひとつ効果が見えてきていないという事実があるようです。最近では不登校の生徒の中に、多くの発達障害の子どもがいるとの指摘もあり、支援員への期待も大きくなっています。今回リーダー研修を受けまして、港区では教育委員会とNPO法人エッジが協力して、研修を受けた支援員さんを学校に配置していることを知りました。また支援員が一人ひとりの子どもの困難に寄り添い、その場ですぐにアイデアを出して簡単な教材を工夫している様子に感銘を受けました。発達障害の子ども達は色々な才能を持ちながらも、その発達のアンバランスから自己コントロールが難しく、自己嫌悪になってしまいがちです。支援員がヒントを与えたり、黒子役になってくれることで日々の生活を楽しみ、学ぶ喜びに目覚めてくれると思います。貴重な研修の機会を作っていただきましたことに感謝しております。

埼玉県川越市 NPO法人チューリップ元気の家
溝井 啓子

今回「港区における特別支援教育と学習支援員の成果」を4都市(川越・宮崎・明石・名古屋)で港区における実践講座報告と各地区での実情報告会がいよいよ9月12日より始まります。9月半ばに宮崎市でも港区・学習支援員の報告会があります。メジャーになったこの支援員制度についての問題点や今後の課題点が改善できるのかに、どのくらいの関心が高まっているのかうかがえます。この支援員制度の原点はどこにあるのかを考えて子供たちの支援(学習指導ができるスタッフを確保)をしっかりとし又支援員として自覚をもてるような研修なり講座を設けたいと思います。行政の企画の中に私たちの(エッジに沿った案)を入れさせてもらい創りあげて県民に広く告知し、ご理解、ご支援をもらえるような組織作りをしていきたいものです。

少しずつですが他にできる波紋のようにいくつかの波を越え全国へ本物の学習支援員制度の研修システムが広がっていくことを感じます。

各4都市の皆さんは、わからないことがあったら電話し、情報交換をお願いします。これからの波を乗り越えられるようにがんばりましょう。

宮崎県宮崎市 吉野保育園
川越 勇蔵

学習サポーターの誕生

7月から「学習サポーター養成講座」をスタートしています。全15回、30時間に加えて、姫路獨協大学のプレイルームや民間の絵画・学習教室での実習も行います。15名の募集に何と42名の応募があり、選考会を開いて25名を厳選しました。

皆さん大変熱心に学んでおられますので、この方々の活躍の場をどう確保するかが何よりの課題です。港区のように通常学級でのサポートを目標にしていますが、多くの自治体と同じく明石市でも「支援員」は要教員免許となっていますから、すぐ学校に入ることはできません。講座は11月に終了しますので、行政と粘り強く交渉しながら様々なネットワークを使って、地域に新しく誕生する「人財」を活かすことに取り組んでいきます。

兵庫県明石市 NPO法人市民サポートセンター明石
代表 田坂美代子

前例のない新規のことを始めるときは、様々なハードルを越えなくてはなりません。しかし、一番必要なのは、最初の一步を踏み出す“勇気”ではないでしょうか。NPO法人エッジの藤堂様を始め、各地で先駆的活動をされている川越、明石、宮崎の皆様にお会いできたことで、この“勇気”をいただきました。

早速、名古屋市にも「学習支援員配置」を実現するための準備を始めました。一人一人の子どもの教育的ニーズに応えるという「新しい学校システム」の構築のために、学習支援員は重要な任務を担うことになると思います。養成講座の役割も大きいです。

非常に収穫のある研修でした。学ぶことも楽しいことも盛り沢山でした。大変お世話になりました。ありがとうございました。

愛知県名古屋市 ディスレクシア協会名古屋
代表 吉田やすえ



このリーダー研修は日本財団の助成金で実施されました

学習支援員のためのガイドブック 特別支援教育 実践テキスト

「能力を引き出し伸ばす支援」が1冊のテキストになりました。

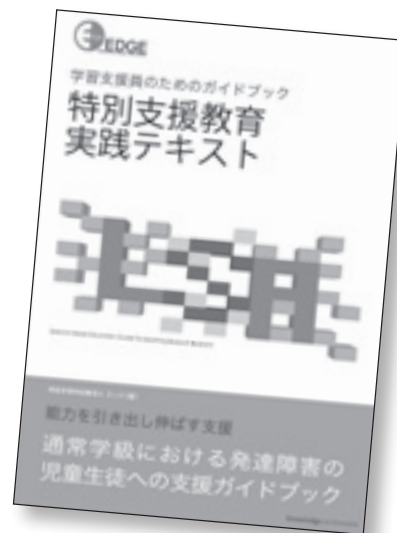
本書は、学習障害を抱え授業になじめない子どもたちを担任教師と協力してサポートする学習支援員(LSA:ラーニング・サポート・アシスタント)のためのガイドブックです。

学習支援員には、熱意はもちろん必要ですが、子どもたちが何に困っているのか、その原因は何か、どのような手助けをすればよいのか、知識と実務訓練が必要です。本書は、このような学習支援員を養成するためのテキストとして活用いただけます。

<本書の内容>

- 第1章 港区の特別支援教育
- 第2章 特別支援教育とは
- 第3章 発達障害の理解とその対応
- 第4章 早期発見の手立て
- 第5章 LD 疑似体験
- 第6章 時代による環境の変化とコミュニケーション
- 第7章 ソーシャルスキルトレーニング
- 第8章 医療面からの配慮
- 第9章 教育の現場 ～就学前～
- 第10章 教育の現場 ～小・中学校～

- 第11章 教育の現場 ～都立高校～
- 第12章 発達障害のある人の高等教育と就労
- 第13章 困難の理解とその支援策
- 第14章 補助教材支援ツールの紹介
- 第15章 問題行動の理解と支援
- 第16章 今後の展望と課題
- 付 録 ささまざまな支援ツールの紹介



著 : NPO法人エッジ
 価格: 2,700円+税
 ISBN: 978-4-903687-07-11
 発行: ナレッジオンデマンド
 ※本書のタイトルや内容は予告なく変更される場合がございます。
 ご了承ください。

インターネットラジオのご案内

成人ディスレクシアの生の声が聴ける、「DX ステーション」も二年目を迎えました。就労問題を中心にさらに充実した番組作りに取り組んでいます。ホームページ、ブログからもアクセスできます。皆様どうぞ、お聴きになり、ご意見、ご要望をお送りください。

http://blog.livedoor.jp/npo_edge/archives/cat_50033715.html
http://www.voiceblog.jp/dx_station/

特定非営利活動法人 EDGE
 インターネットラジオ担当
 DX 会世話人 柴田 章弘

WAM 助成金ワークショップ報告

文責：柴田章弘

第一回ワークショップ「自分発見1」は2009年6月28日(日)、地域活動室で行われました。講師：榎本達彦さんでした。A4の白紙に「今年の夏にやりたいこと」を文字、イラスト、絵等で、自分が一番使いやすい表現方法を使って、ペアの人を周りの人々に紹介するワークをしました。次に自分の履歴年表を作り、一番印象に残ったことをペアの相手に伝える練習をしました。たった2分間でも「話す」方も、「聞く」方も楽ではありませんでした。「相手に分かりやすく伝える」と「相手の言いたいことを聞き取る」が意外と難しいものでした。

第二回ワークショップ「自分発見2」は2009年7月26日(日)に同じ場所で行われました。講師：根本明彦さんでした。最初に「心のテスト」を行いました。正解のないテストなので、多少不安がありました

が、自分の自覚していた特性が出てきました。次に紐付き5円玉を使って、自分の意志がどの程度、身体に伝わるかを実験しました。利き腕の肘を机に着け、親指と人指し指で紐を持ち、下に用意された円内の十文字の上に固定させました。頭の中で「右」、「左」と念じるとつるされた5円玉がその方向に動きました。意志の力はかなり大きなものでした。実りのある有意義なワークショップでした。



この事業は独立行政法人福祉医療機構の助成金で実施しました

デイキャンプのねらい

文責：横田由美子

IBMでは社員のコミュニティへのボランティア活動(ODC)、特に技術やスキルを活かした教育支援活動を会社として積極的に支援しており、また、多様性を尊重し個々の活躍を支援するダイバーシティやアクセシビリティの普及啓発活動にも積極的に参加しています。今回の、NPO エッジ様の子どもたちにトライサイエンスにチャレンジいただいた機会は、午前のLD学習、疑似体験にも助けられ、日頃LDの子どもたちと接する機会の無い我々にとって大変貴重な学びの多い機会となりました。アクセシビリティセンター担当者も、「実際に子どもたちと向かい合う

と、本や論文で得た知識が何の役にも立たないことを実感しました。早口で喋ってしまったり、具体的に指示が出せなかったり。しかし、子どもたちは一生懸命取り組み、笑顔もあちこちで見られ、驚きの声が上がったときは、講師として嬉しかったです。今度はスタッフとしてもっと間近で子供たちに接したいと思います。」と話しています。子どもたちに喜んでいただけたことを一同喜んでおります。今後もIBMならではのことを行っていければと思います。大変貴重な機会をいただきまして誠にありがとうございました。

この事業はロータリークラブ南の寄付金で実施されました

愛をはこぶ人キャンペーン

愛をはこぶ人キャンペーンは10月10日(土)～12日(月・祝)で開催される日本LD学会第18回大会で、英国成人ディスレクシア協会会長のドナルド・シュロス氏の招請に協力し、特別公演「英国における成人したディスレクシアを持つ人の実情」(10月10日、15:30～17:00、東京学芸大学・芸術館1階ホール)が開催されます。同時に、今年も大会会場にて、ディスレクシアに関する啓発展示と2010年版のマッケンジー・ソープ画伯の素敵な作品を満載した愛をはこぶ人キャンペーン・オリジナル・カレンダーやポストカード・セット(税込み1,000円)の販売を行います。

シュロス氏は大和日英基金の助成で招聘しています

今年はNPO法人エッジが独立行政法人医療福祉機構(WAM)より助成を受けて、ディスレクシアの成人の就労支援に関する事業を開始しました。5月に発売された村上春樹氏の「1Q84」の中でディスレクシアについての記述があるなど、啓発に関しては一定の成果が感じられますが、実際に就労支援事業に関わってみると、啓発に関しても一般への浸透はまだまだのように思いました。愛をはこぶ人キャンペーンの役割は、こうした啓発に関しましてもまだまだ大きいものがあります。2010年前半はディスレクシアの啓発と支援に関するいくつかのイベントの開催を予定します。みなさまのご支援とご協力をお願いいたします。(文責:藪巧一)

企業・団体様への素敵なCSRカレンダーのご紹介& 個人のソープ画伯ファンのみなさまへの2010年版発売のご案内

大人気の「マッケンジー・ソープ・カレンダー」2010年版が発売中です!

マッケンジー・ソープ氏の素敵な作品6点から構成されております。

昨年はNHK特集「病の起源」第4集<ディスレクシア>も放送されました。EDGE・愛をはこぶ人キャンペーンの地道な活動の大きな成果でもありますが、現在、「ディスレクシア」への支援は社会的な注目を浴びています。

企業・団体様におかれましては、CSR(企業の社会的責任)活動の一貫と致しまして、素晴らしい選択肢の一つになるものと思います。

このカレンダーは企業・団体様のお名前をお入れできます。1部1,400円(税込み)で名入れにかかわる費用(文字は黒1色)はサービスいたします。尚、名入れのご注文いただく場合は名入れの印刷部分のデザインのご希望や価格など、フレキシブルに対応可能ですので、ぜひご相談ください。

この素敵なカレンダーは作品の素晴らしさもあり、見る人の心に深い印象を残します。

こちらの売り上げからの収益も「愛をはこぶ人キャンペーン」を通してディスレクシアの啓発と支援の活動に役立てられます。

また、個人のみなさまへは1,400円(税込み、

送料600円)で、「愛をはこぶ人キャンペーン」HPのオンラインショップやNPO法人エッジの事務局でも取り扱っています。

カレンダー販売での収益は「愛をはこぶ人キャンペーン」を通してディスレクシアの啓発と支援の活動に役立てられます。



Report from the EDGE - 第21号 -

2009年10月10日発行

発行者 NPO法人EDGE

発行責任者 藤堂栄子

東京都港区浜松町1-20-2 村瀬ビル3F

Tel. 03-6240-0670・0672

Fax. 03-6240-0671

編集 NPO法人EDGE 事務局 柴田章弘

印刷 株式会社 信英堂

<http://www.npo-edge.jp>

http://blog.livedoor.jp/npo_edge/

E-mail: edgewebinfo@npo-edge.jp